



なかお

校長 淵上 昇一

学校教育目標
すこやかに おおらかに たくましく伸びる児童の育成
＜自分が好き 友達が好き 学校が好き＞

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

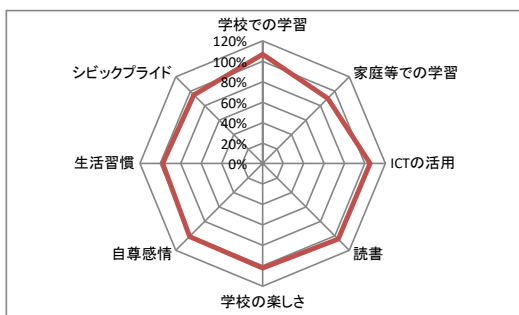
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科平均正答率は、本市・全国平均正答率ともに上回っている。 ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、高い正答率を出している。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科平均正答率は、全国平均には及ばないものの、本市平均は上回っている。 ・「数と計算」領域において、全国平均を大きく上回る正答率を出している。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・授業改善の成果として、授業中に自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表することができる児童の割合が高い。
- ・「学校に行くのは、楽しいと思う。」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」等、90%以上の児童が肯定的に回答している。
- ・「授業中におけるPC、タブレットなどのICT機器活用の使用程度は、週3回以上であると回答する児童が80%近くいる反面、「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、英語の学習等でも活用できるように啓発していく。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・若年教員の割合が高い教職員集団であるが、昨年度までの主題研究等の取組や日々の授業に加え、学校での生活指導、生徒指導等の成果が出てきている。国語科や算数科だけではなく、体育科や音楽科等の専科指導、および高学年の教科による持ち合い授業の取組を進める中で、わかる、できる授業を実現し成就感・達成感を味わうことができる授業づくりに向けた取組を今後もより一層推進していくようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習において、より一層の意図的・計画的な家庭学習への取組を継続し、称賛や励まし等による評価を通して適切な学習習慣が定着するようにする。また、シビックプライドについては、地域活動への意欲はあると肯定的に回答する児童が多く、今後も校外学習を充実させる取組を展開する等、児童の心の育ちを促進していく。